

平成26年度未来経営戦略推進経費
(教学改革推進のためのシステム構築・職員育成に係る取組み) 採択事業

法人名 東京家政学院	学校名 東京家政学院大学
-------------------	---------------------

表題	現代生活学 IR スキルミクス
-----------	-----------------

取組みの概略

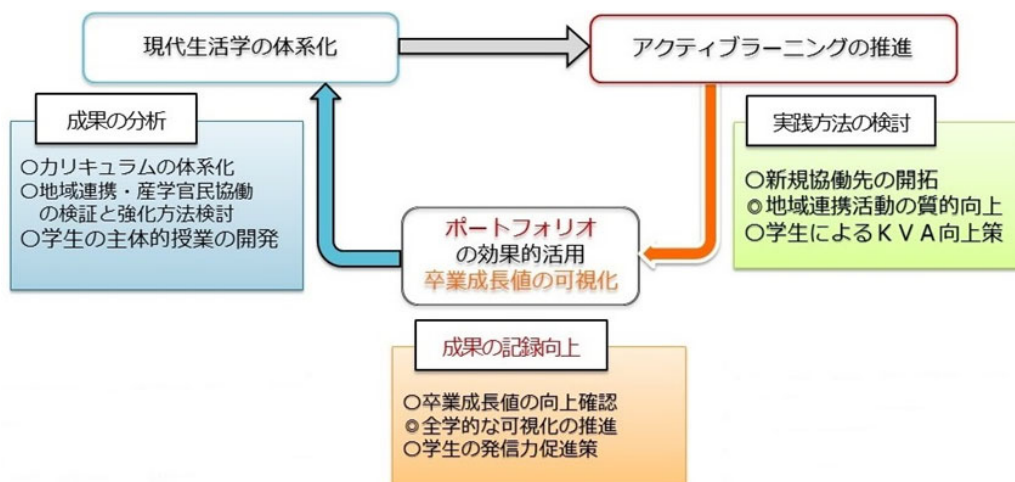
○目的

ーアクティブラーニングの推進による現代生活学の体系化と IR 活動ー

本学は、「広く知 (Knowledge) を求め、それを裏付ける技 (Art) を磨き、知と技を社会に役立てる徳性 (Virtue) を備えた女性の育成」を建学の理念 (「KVA スピリット」と呼ぶ) として、家政学を主とした女子高等教育に力を注いできた。

この取り組みでは、小規模大学の特色を活かし、学生一人ひとりのポートフォリオを体系化し、教育研究環境整備を目的に学内外の様々なデータの収集、分析及び管理等を行う IR を導入して、学内各部署・機関に対して支援・提言を行う体制を整備する。

アクティブラーニングと卒業成長値の可視化



上の図で示すように①「現代生活学の体系化」②「アクティブ・ラーニング」③「卒業成長値の可視化」の三位一体で進めていく。

①「現代生活学の体系化」

本学では、平成 22 年度の大学改革により「現代生活学部」一学部体制へ転換した。これは「現代生活学とは生命の維持、生活の質を重視する生活者の視点から、人間生活における個々人の日常的行為と生活の諸条件 (社会・環境・歴史的条件) の相互作用について、自然・社会・人文の諸科学を基盤として研究し、持続可能な生活の創造に貢献する実践的総合科学である。」と捉えた為である。

②「アクティブ・ラーニング」

少人数教育で教師と学生の距離が近く、演習・実験・実習が多くアクティブ・ラーニングの伝統がある。また、2 キャンパスに地域連携研究センターを設置し、大学の地域化、地域の大学化を推進して学生が地域の未来にポジティブにコミットする地域密着アクティブ・ラーニングの体制を整えた点が特徴である。

③「卒業成長値の可視化」

学生一人ひとりの『卒業成長値』を高める大学づくりを改革の柱とし、FD 委員会が中心となり「大学全体」と「5 つの各学科」を両輪に入学学生の隠れた能力を 4 年間で引き出し付加価値をつける『卒業成長値』を、平成 23 年度より学生がポートフォリオ (マナバフォリオ) を活用し KVA スピリットにあわせた 9 つの力、各 5 項目、計 45 項目を、5 段階評価で卒業成長値を半期ごとに自己評価し 4 年間の成長を記録する卒業成長値の可視化に取り組んでいる。

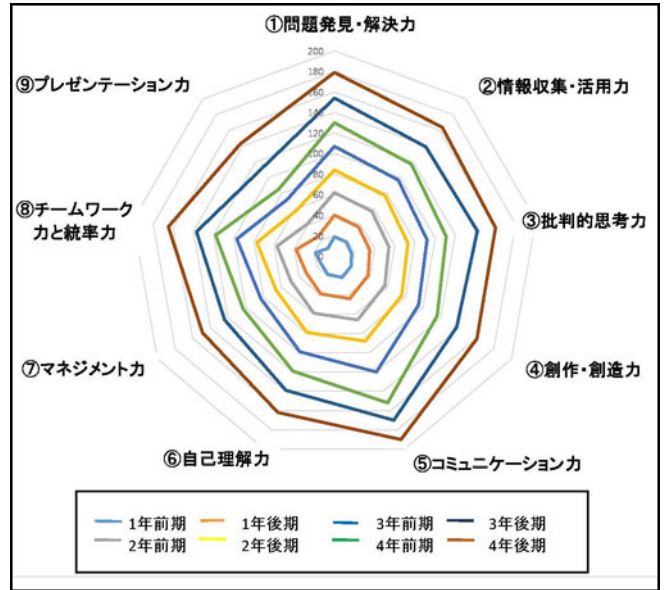
○調査分析するデータの内容と活用方法

現代生活学 IR の核は、学生が自分自身の成長を自己評価する「卒業成長値」である。

暮らし・生活を教育研究対象とする本学の学問的特質をもとに、学生を一括りにせず学びのタイプをモデル分けして指導や支援や相談に活用し、一人ひとりの「生活者」としての潜在能力を引き出し、同時に教学改革につながる IR を目指している。

入学から卒業まで、45 項目の自己点検能力評価を計 8 回行い、コアデータ（一人ひとりの学生データ）と、サブデータ（全体へのアンケート調査など）を一元化して管理し、入口（入学）から出口（卒業）までの見えるカリキュラム・見えないカリキュラムの効果測定を行い、特に地域連携の PBL（プロジェクト型アクティブラーニング）との相乗効果を可視化する。

また、データ分析については外部の専門分析機関の利用から独自の IR 活動ができるように人材育成にも注力し、データ分析体制を整える。

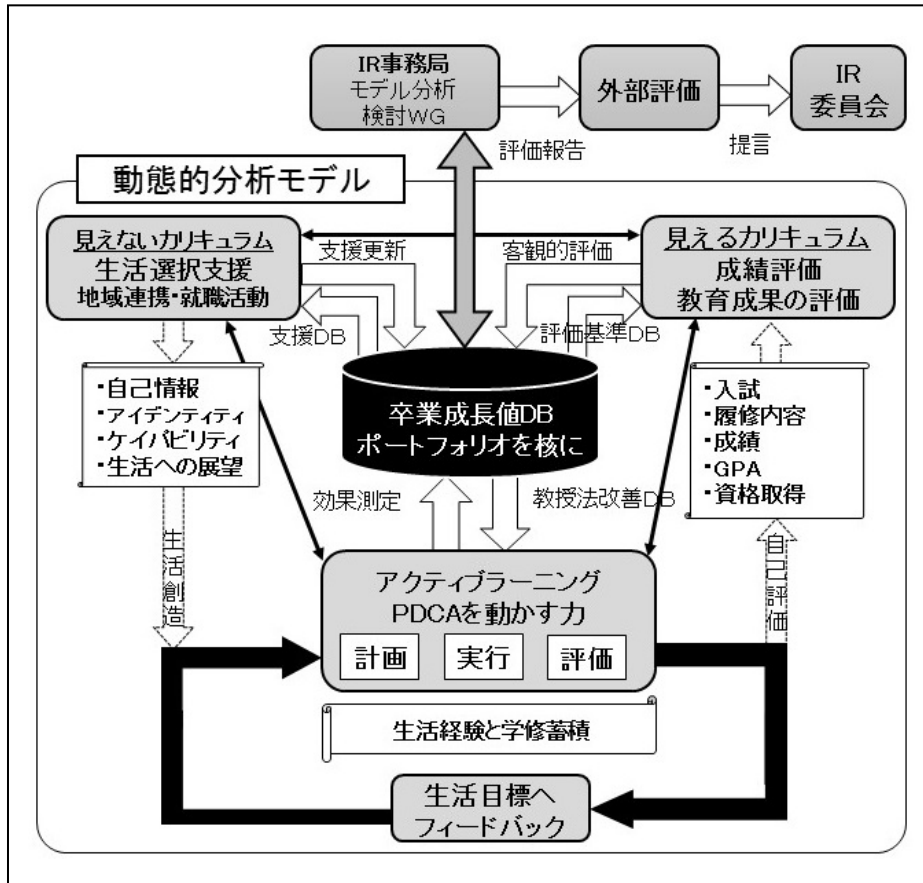


「卒業成長値」イメージ図

○実施管理体制

学長を中心とした IR 委員会及び大学事務局長を中心とした IR 事務局を組織してサポート体制を確立し、外部評価委員会等の第三者機関の評価を受けながら、事業を進める。

東京家政学院大学 現代生活学 IR ベースマップ



○職員的能力向上を図る取組み

ステップⅠ（実施準備）

①現代生活学 IR スキルミクス実施準備

要望・要求、問題点、解決策などの現代生活学 IR 事業内容を共有する。

②分析モデルの構築

専門家を加え、現場へのヒアリングを中心にモデルの構築を行う。

③研修スケジュールの作成

教員並びに事務職員の研修への積極的な参加を促すために予め研修スケジュールを作成する。

④分析モデルを提示

学生のニーズ調査及び調査結果に基づく、学びの目標・資源・状況・環境を明確化し、分析モデルを提示する。

ステップⅡ（データベース構築・データ分析・職員研修）

⑤データベース構築

認証評価、FD、学生募集等に関わる各部署間の連携を確立し、データベース化技術を共有する。

⑥データの一元管理

各部署のデータを一元管理することの有意義性を理解し、その手法について協力して取り組む。

⑦モデルを分析するためのデータベース作成

一元管理するデータから分析モデルとして利用するために専門家を交えてデータベースを作成する。

⑧研修への計画的参加

前ステップの研修スケジュールに基づき研修に参加する。教職員がお互いにリスペクトし、研修結果の相乗効果を導き出す。

⑨分析開始・分析結果の提示

適切な統計手法を用いた分析が進められ、その結果が正しく導き出されているかを検証する。

ステップⅢ（分析モデル作成・職員育成）

⑩現代生活学 IR スキルミクス発展段階(継続的实施に向けてのステップアップ)

キャンパスや学科ごと専門分野、異なる分析モデル・統計手法により分析モデルを作成し、「大学全体」と「5つの学科(現代家政学科、健康栄養学科、生活デザイン学科、児童学科、人間福祉学科)」を両輪に、入学生の隠れた能力を4年間で引き出し付加価値をつける『卒業成長値』活動をPDCAサイクルのもと発展させていく。

⑪学内専門家の育成

現代生活学 IR 事業を継続的に発展させていく上で重要な、モデル分析を精緻化するための統計手法の構築並びに学内専門家の育成のため継続的な研修を実施すると共に自己点検を行い IR 委員会を中心に現代生活学 IR 事業におけるPDCAサイクルを確立する。